

2021年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2022年 3月31日

学校法人 北海道ルーテル学園 大麻ひかり幼稚園

1. 本園の教育目標と教育方針

★明るく元気な子ども ★思いやりを持ち、命の尊さ、平和を知る ★地域の方々との交流 ★自分で試したり、考えたりする

『その子のありのままを受け止めて～ひとりひとりが輝くために～』

◎聖書の教えとキリスト教の信仰に基づき、子どもを愛を持って受け止める。

◎子どもたちが、家庭だけでなく、外の世界にも自分を愛し大事にしてくれる存在がいることを感じ、自分らしくのびのびと成長し、生きることには希望を持ちながら生活できる環境を作る。

◎友だちと出会い、刺激を受け合ったり、一緒に喜んだり、大変な時にも励まし合ったり、アイデアを出し合ったり、譲られたり、譲ったり…、豊かな関係を育む環境を作る。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

環境や状況の変化に臨機応変に対応し、試行錯誤しながら、キリスト教保育を軸に、人との関わりや心の交わりを通して喜びを感じることで保育を行う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	異年齢交流・満三歳保育	今年もコロナ禍により異年齢交流をカリキュラムに入れることの難しさを感じつつも、自由遊びの時間を存分に取り入れるなど、異年齢交流を行える環境を整えた。 2021年度、満三歳児は「ピンクバッチひよこ組」として、年少組から分離した新クラスを設けた。そして、しばらくはほぼ一日の保育時間すべてを自由遊びとして、それから徐々にクラスでの設定活動を取り入れていった。幼稚園を安心できる楽しい場所として過ごしてもらおう中で、次年度への年少への準備もできと思う。
2	保護者との連携	メールアプリの導入は2021年度末までには間に合わなかったが、保護者への緊急の一斉連絡はほぼメールで行い、それにより内容が誤って伝わることを避けることができ、また、保育者の働き方改革への一助となった。2021年度末にICTシステムを導入したので、2022年度はより有益に活用していきたい。 ウェブサイトに活動内容を掲載して、保護者に幼稚園の様子を伝えることができた。コロナ禍で参観日や家庭訪問の実施が困難であったため、2022年度は保護者に向けて幼稚園での子どもたちの様子の動画配信なども考えたい。
3	保育者研修	北海道私立幼稚園協会やキリスト教保育連盟の研修に参加した。リモートの研修に慣れることもできた。2022年度はより積極的に参加したいと思う。全日本私立幼稚園研究機構の研修俯瞰図を活用して、各保育者が自分の弱いところや伸ばしたいところに力点を置いて研修参加を心掛けたい。

4. 総合的な評価結果

今年もコロナ禍によって様々実施できなかったこともあったが、試行錯誤しながら、また臨機応変に、日々の保育に取り組んでいった。保育者が自分たちで考えて話し合い決めていく過程を大切にしたい。

感染対策に心掛けたが、年度末にクラスターを発生させてしまい、子どもたちと保護者にご心配とご迷惑をおかけしてしまった。市の家庭保育協力が願われている期間であるにもかかわらず通常保育を再開したこともその一因と思い、今後慎重に判断しなければならないと思っている。また、より感染対策に努めたい。

保育者の退勤時間が遅くなることが多いので、新年度からは ICT システムなどを活用して、働き方改革により努めたい。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	戸外保育の充実	建築のため、園庭での活動ができない一年となるため、公園での遊びや近隣への散歩や遠足などを取り入れて、子どもたちが戸外で過ごすことができる環境を工夫して整えて実践する。どこかに畑を借りることも検討する。
2	地域との関わり	コロナ禍で本園の教育目標の一つである「地域の方々との交流」がこの二年間(花の日訪問や勤労感謝の機会などを除き)ほとんど実施できなかったため、新年度は、感染対策をしつつも、(たとえば地域の高齢者施設を訪問したり、それが難しければ子どもたちの様子を録画したビデオレター的な動画を送るなどして)地域との関わりがより積極的に行うことができるように努める。
3	保護者の保育参加や保育公開	コロナ禍で保護者を幼稚園に招き、子どもたちに様子を見てもらうことが難しくなっている。けれども、幼稚園と家庭が協力して子育てに仕えることは大切であると考え、新年度は保護者に子どもたちの様子を見てもらうことや、動画などを用いて、保護者に保育に参加してもらうことを積極的に設けていく。同時に、保護者の就労や家庭の環境などが多様化していることを踏まえて、保護者に負担を感じさせることのない保育公開・保育参加、また保護者会活動を検討し実践していく。
4	園舎建築と認定こども園の移行に向けて	新園舎建築の年である。何よりも安全に工事が進められることを願う。新園舎を用いた活動を検討していく。教会堂も一緒に建築が行われるため、教会とより密接に連携した活動や礼拝堂を用いた保育を考えていきたい。2023年度の認定こども園への移行に向けての準備と、保育の見直しをしていく。人材確保にも努める。

6. 学校関係者評価委員会の評価

《学校関係者委員会 2022年3月30日(水)午前10時20分より11時 出席:白井園長・大野教諭・父母の会会長・副会長》

＜園長が自己評価を伝えた後、以下の通り関係者委員の評価がなされた。＞

- ◎コロナ発生時のメールでの情報提供は助かった。
- ◎父母の会でも zoom を用いたりリモート会議を取り入れた。減らせる仕事は減らしていくことに努めている。
- ◎父母の会発行のプロフィールは、ご家庭のプライバシー保護の観点からも次年度からは教職員のみ掲載としたい。
- ◎ICT システムの活用に期待したい。
- ◎文面メールだけでなく、PDF 文書を添付していただきたい。メール文面だけなら読み落とす可能性がある。
- ◎ネットを用いた写真販売をぜひ導入していただきたい。コロナ禍でも来園せず家で注文が可能。働いている保護者にも便利。
- ◎コロナ禍で子どもが運動不足になっている。幼稚園で運動する機会をぜひたくさん取り入れていただきたい。
- ◎保育の様子、こどもの様子をぜひ動画で配信していただきたい。体操や畑作業など。動画を通して、(保護者が来園している緊張した感じではなく)子どもたちのいつもの雰囲気を知ることができることを期待する。
- ◎工事が事故なく進むよう願っている。
- ◎感染症との関係で難しい判断だとは思いますが、家庭保育の継続は限界であり、あの時点での再開は適切だったのではないかと。